

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193500048		
法人名	医療法人 五紀会		
事業所名	グループホーム白鳥台(すずらんユニット)		
所在地	室蘭市白鳥台5丁目20番10号		
自己評価作成日	平成25年2月5日	評価結果市町村受理日	平成25年4月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様には決まり事を作らず、ストレスを感じることなく穏やかに過ごして頂けるように、アットホームな環境の提供に努めております。毎日のミーティングを通して、スタッフ間での意思疎通が速やかに行われ、連絡事項の周知徹底が行われるように心がけています。法人本部の病院と隣接しているため、入居者様の体調の変化には即応できる施設環境です。精神的・身体的な変化があれば、ご家族様に速やかに連絡をして、看護スタッフ・介護スタッフがその対応を随時適切に行っているかを、相互に確認することも欠かさないよう努力を行っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0193500048-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成25年3月13日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、利用者が自宅で生活しているような日々の暮らしができるように、個人を尊重した理念を掲げ支援が行われている。経営母体が医療法人のため、的確な医療連携が行われ、利用者、家族の安心に繋がっている。毎日のミーティングを通じた連絡事項の周知徹底や、連絡ノート等も使いながらスタッフ間の意思疎通も速やかに行われている。今年度は食材の事業者の変更を行い、利用者の希望を取り入れた献立を作り、職員と一緒に準備や味見、盛り付け等を行っている。食事も職員と会話を楽しみながら進めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時オリエンテーションにて、理念について説明を行い、理念シートをスタッフに配布している。入居者様の健康と尊厳の維持を第一に考え、入居者様とご家族様に接している。	日々のケアの中で理念に沿った実践を目指し、スタッフ同士が注意しながら会議の申し送り等の機会を捉え、共有に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校の学芸会などの催事に参加。法人内施設であるケアハウスと夏祭りの共同開催や、法人の中心である病院と共に健康教室を開催し、地域交流の場となっている。	近所への散歩、地域のお祭りへの参加や、法人内施設のケアハウスとの共催でのお祭りには地域住民や小学生、中学生の参加もあり、よさこい踊りには家族や地域の方の参加もある。ボランティアグループの訪問も受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	病院の医療相談室、通所リハビリの窓口担当者、及び居宅介護支援事業所と連携し、特に白鳥台地区の認知症のご家族を抱える当法人利用者様の相談は、入居申込の有無に関わらず、積極的に参画している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回行っている。施設の運営状況、行事などの報告をして、ご家族様からもご意見を伺い、現場でのケアを充実させるためのツールとして活用している。	運営推進会議は年6回行われており、会議出席者が家族、町内会役員、包括支援センター職員、施設長、事業所職員で構成されている。議事内容として、活動報告、行事予定、意見交換を行い議事録は家族に送付している。	会議の充実を図るため、市の担当者、民生委員、地域住民、消防署職員などにも参加要請をし、参加者の拡充を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度はグループホーム連絡会の事務局として、各グループホームと市担当との連絡調整役として、密接な協力関係を築いている。市内グループホームの利用状況(空室状況)を市・包括支援センターに毎月案内している。	今年度は利用者の100歳を祝うために市長がお祝いを届けに来るなどし、市の担当者と毎月事業所の利用状況説明や意見交換を行うなど、グループホーム連絡会事務局としての役割を担っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束実施に至ったケースはない。法人全体で「身体拘束ゼロ」の理念を共有して、入居者様のケアを行っている。	理念シートの中に、身体拘束ゼロの理念も加え、日常生活の中で実践共有に努めている。防犯上夜間8時から朝6時までは施錠している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	意図的な虐待が行われないよう、入居者様のケアを行うときは、スタッフ同士で確認を行っている。また、無自覚に虐待となる言動、行動についても、理念に基づいた指導を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入職時に制度について教育を行っている。また、新しい入居者様のご家族には後見人制度の説明を必ずするので、その際にスタッフにも関連資料を再度配布をすること等により、学習・復習の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては、丁寧な説明を心がけている。ご家族様に不安や疑問が残らないよう、入居者様の意向を無視することのないよう、慎重に対応している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会の際に交流し、可能な限り意見を取り入れた運営を行っている。また、玄関入口に面会者様を対象にした苦情用のハガキを設置している。	運営推進会議や面会、お祭り等の来訪時に、意見や要望を聴く機会を設けており、家族アンケートを取るなど働きかけを行い今後のサービスの向上に繋げている。	今後は利用者家族だけではなく、利用者にもアンケートをとるなどして、利用者本人の意見集約にも期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングで、業務に対する改善案などの意見は提起されている。また、必要事項については、全員に周知徹底できるよう連絡ノートや掲示ボードを使用している。	毎日行うミーティングで、業務改善策等の意見交換を行っている。1年に1回の個人面談で、職員の意見や提案を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人本部と協議を行い、可能な限り職場環境の整備に努めている。勤務時間については、家庭の事情を考慮している。また、スタッフ各々の経験やスキルに合わせて必要と思われる、法人内及び外部の研修参加を推奨している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1回、自己評価と目標設定を行う。管理職が目標の達成度の確認、自己評価と他者評価の相違などについて面接を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	室蘭市グループホーム連絡会主催の研修会、勉強会への参加を促し、他のグループホームの職員と交流できる機会を提供している。また、法人内でも交流が持てるように、他部署での実習を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様に施設見学をして頂き、ホームの雰囲気を感じて頂いている。また、ご本人の事理弁識能力の範囲内で、入居の希望を確認し、入居されてからも、要望を言葉にできるような環境を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の現状を可能な限り把握し、不安や要望を傾聴する。その上で、グループホームが提供するサービス内容をご説明し、ご本人様を中心とした信頼関係構築に繋がるように対応する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームが可能な限りの対応をして、不足、或いは対応が困難な場合は、他の医療介護サービスと連携して行く。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の尊厳を尊び、日々の生活の中でその意思を尊重する。また、スタッフもお茶をご一緒するなど、共に生活をするという雰囲気作りを心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様に対するご家族様の気持ちを汲み、日常の変化に気を配り連絡を密にしている。体調不良などによる病院受診の対応や、不安で落ち着かないときの面会など、ご家族様にしかできないことをお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様をはじめとして、ご友人などの面会は頻繁にある。入居者様の外出・外泊・お食事会などの外出も、ご家族様の都合の許す限りお願いをして、関係継続の支援に努めている。	馴染みの美容室や同窓会への参加、友人の来訪や手紙のやり取り、電話をかけるなどの支援を行っている。家族対応の墓参りなどの外出・外泊などへの支援にも対応し、関係が切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握することは勿論、雰囲気や察することでトラブルを未然に防ぎ、孤立する入居者様がいないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	体調不良などで入院された入居者様の面会は、余程の事情がない限り必ず行っている。退居された後も、ご家族様からお便りを頂くがあるので、今後も関係を継続したいと思って頂けるように努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の意思を尊重した生活の援助を行い、その中で時間をかけて思いを傾聴している。スタッフ、看護師、管理者、施設長全員で、その方らしい生活を送って頂くために尽力している。	利用者のアセスメントやケース記録、利用者の発する言葉や顔色、思いを傾聴しながらその人らしい生活を送れるように支援を行っている。	利用者の思いや意向の把握のための一つのアプローチとして、センター方式を活用するなど利用者の更なる希望や意向の把握を期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時は、十分な情報の聴取ができていないので、折を見てご家族様にお話を伺うようにしている。何気ない会話も、入居者様のことを理解するための一助となると考え、より理解を深めるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、申し送りノートを確認し、入居者様の現在の状態を常に把握する。また、家事の手伝いなどによって、持っている力が発揮できるように援助を行う。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の状態に変化が見られたときは、都度カンファレンスを行い、ケアの方針について話し合い、情報の共有に努めている。	利用者、家族の希望・要望を取り入れた介護計画、モニタリング、ADL評価を毎月担当者が行い、3ヶ月から6ヶ月の定期的な担当者会議を行い、見直しを行っている。特変時はその都度カンファレンスを行い情報の共有を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子に変化が見られたときは、細かく記録を取り、看護師と介護職員の間で情報を共有し、ケアに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様のご協力あってこそだが、必要に応じて他のサービスを活用して、入居者様の生活を充実させることができるよう心がけている(外出、受診など)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防からは緊急時の協力を得られる体制なのは当然のこととして、法人内部、近隣歯科医院の往診など、地域の協力を得られる環境を整えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診先については、入居者様の状態とご家族様の希望を尊重している。計画作成担当者と看護師が中心となり、適切な医療を受けられるよう支援している。	母体病院の診療科については、看護師が密接な対応で受診支援を行っている。かかりつけ医への受診は原則家族対応で行い、状況説明、報告を受け適切な支援をしている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様に関わる申し送りを、介護スタッフと看護師の間で日々行っている。また、ご家族様への伝達も適切に行われるように努めており、主治医とも連携し、必要に応じて病状説明などを行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療相談員を窓口到医院側と連携を図り、退院が予想される時期に向けて受け入れ態勢を整えている。また、入退院時には、管理者が計画作成担当者が可能な限り同行している。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の看取りを経験したスタッフがいるので、その経験を他のスタッフに報告をすることで、情報を共有している。また、ご家族様の意向を確認して、ケア方針に反映させている。	健康管理及び看取りの指針についての同意を取り、状況変化に応じ医師、看護師、計画作成担当者、家族が話し合い、職員研修も行いながら支援をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急対応カードを作成し、速やかに対応できるように準備している。発熱、不穏などが継続している入居者様については、随時打ち合わせを行い、看護師と介護スタッフが情報を共有して対応している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回(うち1回は夜間想定)の避難訓練を行っている。ケアハウスと共同開催の推進会議で町内会の方とともに災害時の避難について話し合いを設けている。水、非常食などの準備、災害時マニュアルと連絡網を整備して、災害対応が可能な体制を作っている。	年2回消防署立会いの下、避難訓練を行っている。救急、救命講習、AED講習も行い災害時対応マニュアルも整備し、体制を作っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、威圧感を与えてしまうようなことがないよう、声かけや対応に気を配っている。また、プライバシーには十分配慮した対応を行っている。	利用者は人生の先輩として、日々のケアでの声掛けなど、人格を尊重した誇りを損なわないプライバシーに配慮した支援をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の都合を押し付けず、入居者様の意思を確認しており、できることはして頂いている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事、体操、レクリエーション、外出などを無理強いつけず、その方のペースに合わせて、必要に応じて援助を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣のときに、入居者様に服を選んで頂いている。毎朝季節感のある装いに努め、基本的には洗面も含め、納得のいくまでゆっくりと行って頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けはできるだけ一緒に行って頂いている。全介助の方にも、食事を楽しんで頂けるように心がけている。	食材の業者変更を行い、献立希望を取り入れ美味しく楽しく食べる工夫をしている。身体状況に合わせたソフト食を取り入れ、利用者と職員と一緒に準備と片付けを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成しているので、栄養バランスの取れた食事を提供できている。水分は好みの飲物を中心に、その日の体調に合わせて摂取量をクリアして頂けるように促しを心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の方は預かって洗浄を行い、声かけをしてケアを行っている。歯磨きの働きかけについても同様である。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄・水分チェック表を活用し、間隔を確認している。外出や食事前の誘導だけではなく、間隔が空いているときには失礼のないよう促している。	排泄、水分チェック表を活用して、声掛け、誘導の支援を行い、衛生用品使用も利用者や家族と相談して行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各入居者様の体調に合わせて水分量を調整している。根菜類の多いメニューやフルーツの提供、食事制限のない方はご家族様からの差し入れ(ヨーグルトなど)のご協力など、対策に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくりと入浴を楽しんで頂けるように、時間はご希望に合わせて調整し、入浴剤なども工夫して、喜んで頂けるよう心がけている。入浴の際は、皮膚の状態を観察し、必要に応じて看護師に報告を行っている。	週2回を目途として、利用者の希望やその時の体調に合わせた時間でゆったりとくつろいだ入浴ができるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は気分や体調に合わせて、居室での休息を促すこともある。夜間はなるべく休んで頂けるよう、入居者様の意向を確認しながら、生活のリズムをつけるよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用されている薬の内容はファイルで管理し、変更があった際は看護師から申し送りがある。氏名・日付・時間帯を必ず確認してから、薬を服用して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝いだけでなく、縫い物などの手作業、トランプなどのゲームを楽しんで頂くこともある。各入居者様の希望に対応できるよう心がけている。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出・外泊は、入居者様とご家族様の意向を第一としており、心置きなく楽しんで頂けるよう、体調管理などをスタッフがサポートしている。また、天気の良い日は、散歩を楽しんで頂くこともある。	天気の良い日はホーム周辺の草とりや散歩に出かけ、外気に触れるように心がけている。また、プランターでトマトを栽培・収穫するなど、少しでも戸外に出られるように支援している。行事での外出や外泊なども、家族対応で支援をしている。	気分転換や日々のストレスの発散、五感への刺激の機会として、更なる外出の支援を期待したい。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこずかいはホームでお預かりして、入居者様とご家族様の希望で散髪、化粧品購入に自由に使って頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方は、自由にご家族やご親戚に電話をして頂いている。電話をお持ちでない方は、ホームの電話を使用して頂いている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは窓が大きいので、採光が過度にならないように声かけの上、カーテンで調整している。季節に合わせた装飾、入居者様の手作りの品などで時折変化を持たせるよう心がけている。また、移動の際に危険がないように、家具を配置している。	壁に花や行事の写真、利用者の作品などが飾られ、季節に合せた装飾をしている。建物はオール電化の空調設備で温度管理されており、湿度管理は空気清浄器や加湿器等で調整されている。浴室やトイレには場所が明確に分かるように工夫され、事業所全体が開放感ある居心地の良い空間となっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで過ごされるか、自室で過ごされるかは、その日の入居者様の気持ちや体調に合わせて頂いている。気の合う方同士のコミュニケーション、テレビ鑑賞など、スタッフが適宜援助を行うように心がけている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から馴染みのある家具類、手回り品を持参して頂いている。ご家族様の写真を飾るなど、入居者様の居心地が良いようにして頂いている。	馴染みのある家具を持ちこみ、その人に合わせた配置や写真や花を飾るなど、安心して過ごせる居室づくりとなっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台、浴室、手すりなど、理学療法士の意見を取り入れ、入居者様が使いやすいよう配慮をしている。また、浴室・トイレなどが入居者様に「わかる」よう、工夫をしている。			